

## 「知恵」と「工夫」をもってまちづくりを

会員 伊藤 宏太郎

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

平素は、当西条市のまちづくりに格別の御支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、国内では官民あげての金融、経済対策にもかかわらず、2002年度の名目国内総生産（GDP）は、1994年度以来、8年ぶりに500兆円の大台を割り、名目成長率も0.7%減とマイナス基調で推移するなど、我が国の経済情勢は、未だデフレ不況の暗雲に覆われ、危機的状況に直面していることを痛感させられます。

また国外においても、イラク戦争の早期終結により、危惧されていたリセッション（景気後退）は回避されたものの、東アジアにおいて新型肺炎（SARS）被害の拡大という新たな不安材料が発生しており、欧米各国における実質成長率のマイナス成長とも相まって、脆弱な世界経済の病状も、「風邪」から「肺炎」に悪化しまいか、懸念されます。

このように、内外とも大変厳しい状況下にある中、本市もその影響を免れ得ないところではありますが、良質かつ豊富な地下水や重厚な工業基盤、さらには、交通の要衝としての優位性を活かして、四国地域における拠点都市への成長を目指すべく、様々な取り組みを進めているところであります。

本稿では、本市における新しい取り組みのうち、代表的なものを紹介させていただきます。

本市では平成13年度に、経済産業省による「即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業」の採択を受けまして、本会常務理事の山内尚隆様に取り締役を務めていただいております、第3セクター「株式会社西条産業情報支援センター（SICS）」を管理法人とする産学官連携のもと、「水素エネルギー利用アドバンス型ハイブリッド冷凍システム」の開発に着手しました。

この研究開発事業は、水素吸蔵合金（MH）の

性質を利用しまして、工場から出される廃熱や当市の豊富な地下水を、それぞれ温熱源や冷熱源として併用することにより、ノンフロン・省エネルギー型のハイブリッド冷凍システムを開発しようとするものであり、事業の実施にあたりましては、本会理事の内田裕久先生に大変なお骨折りをいただくとともに、アドバイザーとして縦横無尽の御活躍を賜りました。

今回の事業を通じて開発された冷凍システムは、国際的にも極めて高い競争力を持つものであり、将来は本システムを応用した、「食品コンビナート構想」等も展開したいと考えています。

続く平成14年度には、「快適環境都市」実現への更なる発展を目指すべく、産学各界の頭脳を結集するとともに、一般市民の方々の御参画も賜りまして、「西条市省エネルギービジョン」を策定しました。

本ビジョンにおきまして、「MHハイブリッド冷凍システムの活用による地域活性化の推進」をアクションプランの一つに掲げておりますが、平成10年度の「西条市新エネルギービジョン」に引き続き、今回も山内常務理事には策定委員会の委員として、その卓越した見識と手腕を発揮していただきました。ここに誌上をお借りしまして、山内常務理事と内田先生の御尽力に深く感謝を申し上げます。

また、本市は現在、「軌間可変電車（フリーゲージトレイン）」の早期導入にも取り組んでいます。

財団法人鉄道総合技術研究所を中心に開発が進められているフリーゲージトレインは、車輪幅を軌間（ゲージ）にあわせて自動的に変換することにより、新幹線（標準軌）から在来線（狭軌）への直通運転を可能にする画期的な電車であり、去る6月上旬には、JR予讃線において走行試験が行われました。

フリーゲージトレインの導入は、新規の新幹線整備に比べて、はるかに低コストでの実現が可能であるだけでなく、現在は約2時間半を要する伊予西条～新大阪間を、約2時間で結ぶことが可能となります。

さらに、観光やビジネスへの刺激に伴い、当市を含む環瀬戸内圏域の極活性化に結びつくことも期待できることから、私はその実現を強く訴求してまいりましたが、先般四国市長会において、当市が提出したフリーゲージトレイン早期導入の推進に係る議案が、全国市長会への要望事項として採択されました。

今後、国土交通省に対して、一層の要望がなされていくものと思われませんが、この趨勢に乗り、当市からも強い意志を積極的に発信し、早期導入に向けて努力してまいりたいと考えています。

また、我が国の鉄道に関連して想起されるものは新幹線ではありますが、閉塞感や悲観主義にとらわれかねない時代にあって、近年、一つの強烈な個性に光が当てられようとしています。

旧制西条中学校（現在の県立西条高等学校）を卒業され、戦後の混乱期にあって当市の市長も務められた第4代国鉄総裁・十河信二氏その人です。

東海道新幹線建設に奮闘し、高速鉄道時代の礎を築かれた氏の功績が再評価されているところですが、この頑固一徹の気概をもって、一大プロジェクトを成し遂げた郷土の偉人を顕彰するべく、現在、当市では「十河信二記念館」整備構想の実現に取り組んでいます。

この構想は、JR東海の須田寛会長からも高い評価をいただいております、今後はJR東海とJR四国、さらには、鉄道遺産を活用したまちづくりにおいて実績を持つ財団法人日本ナショナルトラストとの連携のもと、その推進に努めてまいります。

さて、温和な瀬戸内の気候にも恵まれ、普段は落ち着いた佇まいを見せる当市も、年に一度、華やかな喧騒に包まれる時があります。

毎年10月上旬から中旬にかけて、市内四神社の

秋の大祭として催される「西条まつり」がそれであり、人々はこのまつりに熱狂し、漲るエネルギーを燃え滾らせます。

中でも15・16日にわたり繰り広げられる伊曾乃神社の祭礼は見どころも多く、80台余りの「だんじり」や「みこし」が終日市内を練り歩く様は、元禄絵巻を彷彿させます。

昨年、代表理事代行の北畠道俊様、常務理事の寺川彰様と渡部式郎様、その奥様方が見物にお出でくださいましたが、他の会員の皆様も是非一度御来西いただき、豪華絢爛な「西条まつり」を御覧ください。その折には案内役を務めさせていただきます。

地方分権の進展に伴い、地方自治体にも変革の波が容赦なく押し寄せており、当市も今後ますます激しい都市間競争に晒されるものと予想されます。

また、少子、高齢社会への対応や環境保全、地域経済の再生など、取り組むべき課題も山積しており、明確な地域戦略を海図としたまちづくりの舵さばきが求められています。

このような厳しい状況下にあります、私は「都市の自立と活力の喚起」「都市の個性の創出と創造力の発揮」「都市間の交流と連携の強化」を基本理念としつつ、「知恵」と「工夫」を大いに発揮し、「潤いと活力あふれる快適環境・産業文化都市」の実現に向けて邁進していきたく思います。

会員の皆様におかれましては、どうか今後とも当市のまちづくりに御指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げます、甚だ乱文ながら筆を置かせていただきます。

**(愛媛県西条市長)**